

# ART KISS LETTER

vol.42  
[2009.夏号]

FREE

[アート・キッスレター]

FOR KUMAMOTO ART PEOPLE

Contemporary Art Museum, Kumamoto

熊本市現代美術館発行 <http://www.camk.or.jp>

SUMMER

## 「井上雄彦 最後のマンガ展 重版〈熊本版〉」開催しました 2009.4.11-6.14

展覧会オープンの前日には、プレスや招待客のみならず、合計200名ほどの方々をお招きして、内覧会・オープニングセレモニーが開催されました。

写真は、井上さんが、展覧会場エントランスに、描きおろしていただいた巨大な作品の最後の仕上げをさせていただいているところです。深く静かな集中力で、丁寧に仕上げてくださいました「場」がすべて完成された瞬間でした。特別に、ご招待のみならず、井上さんの作画中の静かな緊張感と優雅な筆さばきの瞬間を共有することができました。作画後に、井上さんからご挨拶をいただきました。第一声に、「熊本大学文学部中退の井上です。帰ってきました。」と、井上さんと熊本の緑の深さを、ユーモアをこめて語っていただきました。

内覧会に引き続き行われた、オープニングセレモニーでは、展覧会の開催を祝し、井上さんを含めた主催の代表者とご来賓の代表者によってめでたく鎮割が行われました。枳酒と、塩むすびと、熊本市のオフィシャルウオーター「熊本水物語」でのおもてなしは、井上さんの発案でした。シンプルでおいしいお食事でした。

セレモニー後の歓談の場は、観覧後の冷めやらぬ熱気と、井上さんをかこんでの和やかな雰囲気につつまれました。

展覧会オープンの初日には、なんと朝の3時30分より、いともたつてもいられずに美術館前に並んでくださったお客様をはじめ、たくさんのお客様のうきうき・わくわくの表情と、熱気を受け取って、展覧会場がまさに「誕生」した雰囲気につつまれました。初日に駆けつけてくださったお客様の数、なんと約1500人！当館としてもはじめての体験でした。

会期中は、企画展の入場者レコードを大きく書き換え、約78,500名のみならず、このマンガ展を楽しんでいただくことができました。会期中に行われた様々なイベントなどは、当館発行の報告書にすべて収録予定です。(H.T)

# 熊本市現代美術館の活動

熊本市現代美術館の活動

m u s e u m i n f o r m a t i o n

## 第20回熊本市市民美術展 熊本アートパレード 会田誠 公開制作&ワークショップ「顔」 2009.2.28-3.15

今年の熊本アートパレードは、会田誠さんを審査員にお迎えしました。テーマは「すごい正直(でなければ、すごいウソ)」、総出品数は308点でした。アートパレード大賞は、穴吹智子さんの《無関心》でした!

熊本アートパレードの関連イベントとして、審査員の会田誠さんの講演会を開催しました。今回、会田さんが審査を行った受賞作品と、会田さんの作品を画像で紹介し、会田さんが現在興味を持ち続けていること、過去にテーマにした題材と、今回の受賞作品と重なりあうポイントなどをお話くださいました。アートパレードのトークとして、なぜその作品を受賞作として選んだか、ということについて、こんなに詳しく真摯に、トーク参加の皆さんの前でお話された方は初めてでしたので、会田さんの深い愛情を感じました。

会田さんに「アートパレードはいいですね!」という激励を、前年の菊畑茂久馬さんに引き継ぎただけなのが、なによりのうれしいお言葉でした。

講演会とあわせ、会田誠さんの公開制作+ワークショップを行いました。アートパレード会場内に設けられたワークショップルームに、会田さん手書きの指示書が貼りだされ、なぜダンボールで、なぜ多くの参加者のみなさんと、なにをつくりたいのか、どのようにつくってほしいのか、というガイダンスが貼りだされました。これだけでも必見のアイテムでした。

さて、その指示書に従って、立体的にダンボールで「顔」をつくっていくのが「お題」なのですが、会田さん曰く「完成しなくても、いいです。顔にならなくても、結構です。パーツの段階なら、他の方のものとなぎ合わせて必ず使わせていただきます」とのことでした。ですので、未完成でOKということで、それならば、と気軽に参加される方も多くいらっしゃいました。このワークショップは、アートパレード会期中の毎日行われました。会田さんのビジョン、「壮大な作品を、多くの人々と、時間をかけてつくる」の実現を目標のひとつとしたダンボールでつくる作品「Monument for Nothing II」の、熊本担当分が、おおきな3箱の段ボール箱につみこまれて、会田さんのもとへと旅立ちました。参加されたみなさま、ありがとうございました。あとは、いつの日かすべてが完成する日をともに待ちたいと思います!(H.T)



## G3 vol.61 第29回熊本市造形展 2009.2.19-3.1

第29回熊本市造形展は今年から熊本市現代美術館が会場となりました。熊本市内の中学校33校から約1000点の作品が選ばれ、各学校の美術の先生の手によって展示されました。美術の時間で取り組んだ、さまざまな素材や技法への挑戦も、生徒や学校によって表現は多様です。なかでも江南中学校では、地域の学習で学んだ松本喜三郎のエピソードを切絵で表現し、多角的に創造力が育てられているのを感じることができました。(Y.H)



## G3 vol.62 第14回熊本市シルバー文化作品展

2009.3.7-22

熊本市シルバー文化作品展は、熊本市老人クラブ連合会会員の皆さんによる展覧会です。

今年も絵画、書、写真、手芸、工芸と幅広いジャンルの作品が約200点展示されました。

井手賞は洋画《洋酒瓶》を描いた大倉美津子さん、最高齢賞は人形《若き日のわ・た・し》を制作された100歳の村田テイ子さん。

皆さんが丹精込めて作られた作品が並び、彩り豊かな空間をお楽しみいただきました。(A.A)



## 熊本の華人展 vol.5

2009.3.20-22(前期) 3.27-29(後期)

今年で5回目を迎える熊本の華人展では、昨年好評だった当館所蔵作品等とのコラボレーションコーナー、県内の窯元からお借りした器とのコラボレーションコーナーを設けました。いずれも力作が並び、春のはなやかな花々で埋め尽くされた空間となりました。また、今年初めての試みとして、複合ビルの特長を生かし、ホテル日航熊本のロビーやレストラン前、商業施設前の空間などに花を生けていただき、新しいいけばなの形を感じることができました。「ユニークな作品が多かった。新たな価値観が生まれた気がした。また見に来たいと思わせてくれた。」(アンケートより)(E.Z)



## まつぼっくりのおはなしおじさんがやってきました!

2009.3.21

「熊本の華人展 vol.5 いけばなワンダーランドへようこそ(^O^)/~」の会場で、まつぼっくり劇場のおはなしおじさんによる大型絵本(花さき山)&パペットショーを開催しました。犬や鳥など可愛いお人形を使ったパフォーマンスと心に響く語り、子どもたちはくぎづけでした。春の色とりどりの花々に囲まれて、楽しい会場となりました。(C.T)



## オリジナル花生けをつくろう!

2009.3.28

熊本の華人展 vol.5 のイベントとして、陶芸ワークショップを行いました。参加者の方には、コーヒー、ワイン、日本酒、サイダー、ジャムなど、様々な形のピンを持ってきていただき、それを型に花器のベースをつくりました。仕上げには違う色の粘土を丸めて埋め込んだり、クシやスタンプでお洒落に模様を入れたり、オリジナル性とんだ作品がたくさん完成しました。お持ち帰りいただいた数日後、参加者のみなさんから、自作の花器に花が生けられた写真が届きました。「花器に花を生ける楽しみが増えました」と嬉しいお言葉もいただきました。(C.T)



## お話し玉手箱LIVE

2009.3.22

「お話し玉手箱 LIVE」が当館ホームギャラリーで開催されました！RKK ラジオで毎週金曜日の夜(4月からは月曜日)にお送りしている朗読番組「お話し玉手箱」を生(LIVE)でお届けするこの試み。今回は、『葉っぱのフレディ』(レオ・バスカーリア作・童話屋)、『よっぱらったゆうれい』(岩崎京子作・教育画劇)、『野菊の墓』(伊藤左千夫作・河出書房)の朗読がありました。語り手は RKK アナウンサーの本田史郎さんと福島絵美さん。さすがは声のプロ！きれいでかついい声に臨場感のある語り。お二人の綴る物語に会場が魅了されました。(M.F)



## ミュージック・ウェーブ No.15 mama milk!

2009.3.14

ストリート・アート・ブレックスとの共催による、「mama!milk 'Fragrance of Notes' ensemble」を開催しました。土曜日の夜の帳がおろころ、灯りを落として幻想的な空間となったホームギャラリーで奏でられる、アコーディオン、トロンボーン、コントラバス、ピアノによる絶妙なハーモニーにお客さまもうっとり。くしゃくの音や遠い街の歌など、興味深いモチーフによる素敵な曲が夕暮れを彩りました。(A.A)



## ミュージック・ウェーブ No.16 GREAT COMPOSER MEMORIAL SERIES VOL.31ベートーベンとドビュッシー 2009.3.25

ストリート・アート・ブレックスとの共催による、ベートーベンとドビュッシーの命日にちなんだメモリアルコンサートを開催しました。ピアノの他、チェロ、バイオリン、フルートなど多様で充実した内容でお贈りし、出演者が作曲家や曲にそれぞれの思いをこめて演奏してくださいました。(M.O)



## 「井上雄彦 最後のマンガ展 重版(熊本版)」連続講演会 第1回「井上雄彦 最後のマンガ展」というマンガ、その特徴について」 2009.4.19

「井上雄彦 最後のマンガ展 重版(熊本版)」開催を記念して、当館企画の連続講演会(全6回)の、第1回目を開催しました。第1回目は、本展担当学芸員の富澤が、チラシ掲載の講演会名を改題し、「井上雄彦 最後のマンガ展」というマンガ、その特徴についてをテーマにお話ししました。論じるにあたって考えれば考えるほど、複雑な形態をしていたのが本展でありますので、6章+まとめに分けて論を展開しました。具体的には、人類の表現の歴史において、古今東西、これまで壮大な物語は壁画を通じて共有されてきたことに触れ、そのうえで、マンガ展と壁画の違いについて触れました。ついで、マンガ展におけるマンガ的要素とそうでない要素について具体的に指摘し、マンガ展のストーリーの複雑さを述べつつ、それが観る者に容易に受け止められるためにどのような工夫がなされているかを言及し、そのうえで、ストーリーの特徴について触れ、それが週刊誌連載の『バガボンド』とどのような関係性を持っているかについて触れました。(H.T)



## 「井上雄彦 最後のマンガ展 重版(熊本版)」連続講演会 第2回「井上雄彦と日本水墨画史」

2009.4.25

連続講演会第2回目の講演者は、明治学院大学教授の山下裕二先生でした。講演の冒頭では、上野でのマンガ展を、年末の新聞の特集記事「1年をふりかえって記憶に残った展覧会」において、個人的には今年最高の展覧会として紹介したほどすごい展覧会だったにもかかわらず、美術評論関係者で見た人はごく少なかったのではないかと、それはマンガというものに対する考え方に問題があるのではないかとという見解からはじまりました。続いて、個人的な体験として、青少年時代より読んできたマンガについての熱烈な愛、特に、つけ義春への深い愛を語りつつ、1970年に少年マガジンが横尾忠則に表紙デザインを依頼していたそのすさまじいインパクトについて語るなど、通常のアート史講義ではなかなか聞く機会のないお話が次々と展開されました。と同時に、長谷川等伯や、式部輝忠、雪舟、雪村を紹介しつつ、その線と澁墨、構図を読み解きながら、「井上雄彦は正統な日本画の継承者である」と述べられるなど、山下先生ならではの大変エキサイティングな講演でした。(H.T)



## ミュージック・ウェーブ No.17 田島涼子とバイオレッツ琴アンサンブル

2009.5.2

「井上雄彦 最後のマンガ展 重版(熊本版)」で館内がにぎわう中、美術館5階のアートロフトにて、田島涼子さんと、その門下生バイオレッツのみなさんによる、琴の五重奏のコンサートを開催しました。田島先生は、世界中の学校を回り、親善公演を数多く行ってきて中で、「海外へ行くとその国の子供たちが、必ず母国の楽器で演奏をしてくれます。日本でも、もっと多くの方が日本の楽器に興味をもって弾いてほしいと願っています。古典的な曲だけでなく、映画音楽、ジャズ、ポップスなど、あらゆる曲をお琴で弾くことができるのです。もっと身近に感じてもらえたらうれしいです。」と話し、バラエティ豊かな演奏で会場を魅了してくださいました。(M.O)



## 宮本武蔵の史跡をめぐるバスツアー 第1弾 2009.5.10

「井上雄彦 最後のマンガ展 重版(熊本版)」の関連イベントとして、「宮本武蔵の史跡をめぐるバスツアー」を開催しました。展覧会が始まる前にすでに、定員を超えるお申込みをいただくなど、ご期待を大いに受けていたのですが、天候にも恵まれ、青空と若々しい緑に包まれたバスツアーとなりました。武蔵塚公園で、武蔵の墓参りののち、立田自然公園で昼食、武蔵の葬儀が行われた泰勝寺あとの竹林で思いを馳せました。霊巖洞で、五輪書を書く武蔵の姿を想像してのち、島田美術館で、武蔵ゆかりの品々をゆつくり鑑賞しました。新緑のまぶしい時期のピクニック気分、参加者のみなさまにも楽しんでいただけたようです。(H.T)



# ART de GYANI

熊本弁で「アート・ド・ギャン」の意です

## 上野洋嗣・吉田智美 二人展

2009.5.30-6.14 コレクションOMO  
熊本市上通4-14大森ビル3F TEL:096-356-4721

熊本市で制作活動をしている吉田智美さんと、上野洋嗣さんの2人展。  
吉田智美さんは、今展覧会が熊本での最後の展示となる。今回はやきものの、「陶」と「磁」、二種類の土を使って、それぞれの形を組み合わせ、オブジェと花器の展示である。吉田さんは土のイメージを、「磁」は、ふんわりと軽く、繊細でもろい、そして「陶」はどっしりと支え守る、という意図で制作された。二つの素材の響き合い、抽象的に表現された形と釉掛けの表現がおもしろく、思わず見入ってしまう造形であった。上野洋嗣さんは、昨年、崇城大学芸術研究科を修了され、現在は熊本で制作活動中の若手作家である。会場には、15点ほどの写実的に描かれた油彩作品が並び、風景、静物、人物などが、上野さん独自の視点で描かれる。中でも阿蘇の雄大な大地を描いた作品は、写真と見間違えそうな程リアルであるが、同時にシュールな世界観も秘めており、何よりその迫力は圧巻であった。対極にある二人の作品が互いを引き立て、高め合うような空間で、今後の活動を応援したくなる展覧会であった。(M.O)



## くまもとの工芸に親しむ ～城下町に花を添えて～

2009.5.8-10 熊本県伝統工芸館  
熊本市千葉城町3-35 TEL:096-356-4721

熊本伝統工芸館で平日頃からお花を生けていらっしゃる5流派（「草心流」「宏道流」「真生流」「知香流」「花芸安達流」）が伝統工芸館所蔵作品の様々な工芸品に花を生けるとい企画。鎌や籠など一度は目にしたことのある工芸品に、初夏を感じさせる花々が時には力強く、時には野に咲く花のように楚々と生けられていて、工芸作品の存在をより印象付ける空間となっていた。(E.Z)



## 第10回書芸「風」展

2009.2.18-2.23 アートスペース大宝堂  
熊本県熊本市上通町5-6 TEL:096-354-2155

書家、丸山三千代さんの社中の弟子25人が38点の漢字、かな、調和体書を展示。今回は10回記念展とあって、美しいポストカードも飾ってあった。松山三千代さんは、夏目漱石の書簡集から「牛になって人間を押せ」を全紙大の扁額にして伸びやかにまとめ、「鐘々」は二曲屏風に鮮やかに魅力ある表現で見せている。桐野美恵子さんはミュージカルの「アニー」より「Tomorrow」を大きな扁額に素直な書きぶりである。河添智子さんは、室生犀星の「並木町」を温かみのある文字で、やさしく自然な書がよい。「雪月花」は25人が、雪、月、花から一字を選んで書いた小品をパネルに張った合作で、春らしい明るい雰囲気の出場となっていた。(S.K)



## 熊本の女性画家11人展

2009.4.14-4.26 崇城大学ギャラリー  
熊本県熊本市花畑町 TEL:096-323-1158

20代から80代までの熊本ゆかりの現役女性画家、11人の展示。作品はすべて平面で、現役の大学生からベテランまでバランス良く、新たな発見も多い、興味深い企画であった。高村美恵子の《モンテスラ》《花水木》《南天》は、確かな描写のなかに作者の植物に対する愛情が感じられる柔らかい筆致で見るものを和ませる。なかでも、最も注目したいのが武内明子。独特の色感、のびのびとした筆使いによる《花シャツ》《おととい色々》は、可能性を感じさせた。もっと大きな画面の作品を見たいと思わせ、その力を十分に秘めた作家である。(A.S)



## 第13回 洛神書作展

2009.3.11-3.16 アートスペース大宝堂  
熊本県熊本市上通町5-6 TEL:096-354-2155

元熊本大学教授で書家の森山淡草さんが主宰する洛神会員の30人が31点を展示した。  
森山淡草さんは「夢」の古代文字を中央に大書きし、そばに芭蕉や山頭火の夢の俳句をうまく添えて、よくまとめている。緒方龍生さんは蘇東坡の詩2首を5行の行草書にして、リズムの変化の美しさを見せた作である。浅野千恵さんの半切条幅「松樹千年の翠」は潤渇をきかせた素直な作である。早崎和子さんの3行の「李白詩」は熊日賞受賞作だけあって見事な作である。会場は漢字やかなに現代詩などを題材にした調和体書など絵画的な古代文字を使った一字書など多彩である。(S.K)

## 井上雄彦展 最後のマンガ展 重版(熊本版)

- マンガを読んだことがなかったのですが、芸術作品、絵画として十分に見ごたえがありました。
- 展示の演出がこってり、作品の世界に入り込めました。(20代、女性、熊本市内)
- 井上雄彦の世界を共有できた。まるで、その場所にいるように。(20代、男性、鹿児島県)
- 井上雄彦さんの漫画は深くは知りませんでしたが、筆の勢いとか、情熱のあるマンガ家なのだとなんか気になって来観しました。涙がでる感動がありました！マンガの世界に自分が入っているような見せ方が驚きました。(20代、女性、熊本県内)
- 感動でした。まだ何度も行かないと言葉がみつかりません。展示作品の一つ一つが主役でした。(30代、女性、福岡県)
- とてもせつないような、さびしいような、武蔵の気持ちを感じた。(30代、女性、福岡県)
- 鬼気迫る、力強い気合いとイメージの結晶のような展覧会だった。(20代、男性、佐賀県)
- マンガを真剣に見た。(30代、男性、鹿児島県)
- 「人の強さ=心=愛=素質をめいっぱい

- 伸ばすこと。」井上さんのマンガで感じたこと。最高でした。(20代、女性、鹿児島県)
- 声も出ないくらいすばらしかった。マンガの可能性を限りなくひきだした展覧会だった。井上雄彦展は、東京での展覧会だけでと思っていたので、熊本でみる事ができて本当によかった。(50代、男性、福岡県)
- バガボンドを読んだことがなかったのに、マンガの世界に入り込めたみたいで、現代美術館ってこんなに広がった、と思うくらい展示に工夫がありよかったです。待ち時間は長かったけど、入場制限があったおかげでゆっくりみることができました。(10代、女性、大分県)
- 私は、将来美術系に進みたいので、今回の展覧会はとても参考になった。人物のタッチをよりリアルに自然に描いてあるのがよかったです。(10代、女性、熊本市内)
- 雄大で感動をうけた。(60代、男性、鹿児島県)
- 亡父が武蔵を好きでよく本を読んでいた。心の中で父とも会話できたような気がします。これからのいい作品を、がんばってください。(50代、女性、名古屋)

## Visitor's Letter

来館者のみなさんからのメッセージ

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介いたします。

## 館内について

- この図書館がとても気に入りました。すてきです。ちょっと遠いけど、絶対にまた来ます。(20代、女性、福岡県)

## お知らせ

「井上雄彦 最後のマンガ展 重版(熊本版)」報告書を発刊いたします。美術館エントランス風景写真や、芳名部屋風景写真、美術館でのイベントレポート、連続講演会内容すべてを収録しております。お楽しみに！A4変型タテサイズ、80ページ、1200円

## 編集後記

今年度最初のAKLです。「井上雄彦 最後のマンガ展 重版(熊本版)」への対応や、AKLを新しい仕様に変えたりなど、いろいろ欲張っていましたが、発行がやや遅れてしまいました。今年も、美術館活動の情報を、楽しく・わかりやすく、皆さまのお手元にお届けできるよう、精進してまいります！

編集長 富澤治子

この長雨の季節は、毎朝コーディネートに頭を悩ませますね。油断して風邪をひかぬよう体調管理をしっかり、というのが最近の私の目標です。美術館では次の展覧会「花・風景」展に合わせた関連本やマンガを準備中です。雨の日はホームギャラリーの青空の下で読書を楽しみませんか。

担当 大岩みゆき

- 発行元/ART KISS LETTER アート・キッス・レター Vol.42 2009年7月発行(夏号) ◎無料◎
- 発行人/桜井 武 編集長/富澤 治子 担当/大岩 みゆき
- デザイン/(有)松永 壮デザイン事務所 ●印刷/シモダ印刷
- 発行/熊本県現代美術館 〒860-0845熊本市上通2-3 TEL.096-278-7500 FAX.096-359-7892

●執筆者一覧  
\*ギャラリー取材原稿の文末にイニシャルにて記載しております。

- 兼城昌山
- Syozan Kaneshiro (書道家)
- 森山淡草
- Tanso Moriyama (書道家)
- 桜井 武
- Takeshi Sakurai (熊本県現代美術館館長)
- 本田代志子
- Yoshiko Honda (熊本県現代美術館主任学芸員)
- 蔵座江美
- Emi Zoza (熊本県現代美術館学芸員)
- 富澤治子
- Haruko Tomisawa (熊本県現代美術館学芸員)
- 坂本顯子
- Akiko Sakamoto (熊本県現代美術館学芸員)
- 菅田彩葉
- Aki Ashida (熊本県現代美術館学芸員)
- 矢加部 咲
- Saki Yakabe (熊本県現代美術館学芸アシスタント)
- 大岩みゆき
- Miyuki Oiwa (熊本県現代美術館学芸アシスタント)
- 藤本真帆
- Maho Fujimoto (熊本県現代美術館学芸アシスタント)
- 高橋知江
- Chie Takahashi (熊本県現代美術館学芸アシスタント)

# WORLD NEWS

## 混浴温泉世界 別府現代芸術フェスティバル 2009

2009年4月11日(土)から6月14日(日)まで大分県別府市で開催された、話題のアート展を訪れた二人が、その赤裸々な感想をつづります！  
(Y: 矢加部咲、S: 坂本顕子)

### ◆混浴の作品について

Y 別府、どうでしたか。  
S 私は初日に行ったんだけど、一日じゃ見きれないね。10-17時までの間に廻るとなると結構駆け足だった。Y たしかに私も駆け足。ゆっくり見たいのがあっても、あ、そろそろ時間が…って感じになっちゃう。  
S まあ、温泉もいかなきゃだしね(笑)  
Y そう、温泉も、グルメも(笑)  
S とはいえ、さすがに作品について語らないとマズイ！のど、一番印象に残っている作品というのは、ある？  
Y やっぱ、チャン・ヨンヘ重工業の《別府でハネムーン》かな(図1、2)。大阪で出会った二人が、ハネムーンと称して行った別府旅行を回想する。二人の回想のテキストだけがナレーションつきでリズムカルに左右に同時に投影されるんだけど、同じ体験でも随分と男女で違うことを考えてるんだよね。そのズレがなんとも切ない気持ちにさせる！  
S あれは特に女性に人気だね。チャン・ヨンヘ重工業は、韓国在住のアーティストユニットで、プロフィールや顔写真は非公表、でも作品はネット上ですべて公表というユニークなグループ。日本語-英語-韓国語といった言葉をトランズレーションする上でリズムカルに左右に同時に伝わる感覚の同一性がすごく面白い。音楽もいいよね～。  
Y 他には気になる作家は？  
S そうだな、マイケル・リン(図3)は国際展の常連だね。サルキスも、インスタブル出身でパリ在住という出自にも関わらず、東洋的な感覚と西洋的な感覚のマッチングがとても新鮮。アデル・アブアスメッドの「EXILE」(図4)もさりげないけど、よかったね。  
Y 一瞬「EXIT(出口)」に見える黄色いネオン管の文字の作品ね。「EXILE」って言葉には、国外追放や亡命、流浪なんて意味がある。プロフィールをみると、アデルはアルジェリア出身でニューヨーク在住。自分の背景を重ねているのかも。  
S 別府の町の思わぬところでのネオンを見つけると、新たな世界への扉が開かれているようで、なんだか嬉しくなったなあ。でもきっと、現実には厳しいんだろうけどね。  
Y もう一人、忘れてはいけない作家がいますよ。  
S インリン・オブ・ジョイトイ様(図5、6)ですか。グラフィア写真以外の作品を初めて見たけど、意外によかったね。  
Y そう、実際に飲食店だったお店のカウンターで、彼女が何者からか別府の街を逃げ回るビデオが流れている。その2階にあがると、二部屋に分かれていて、インリンの裏の顔と、もうひとつさらに裏の顔がわかることになる…って書くんですけど(笑)…でも、この号が出るころには会期が終わるのでネタバレを許してもらおうと、ベビーベッドのあるかわいい部屋と、「造反有理」なんて文字が一面に書きなぐられた牢獄のような部屋に分かれているんだよね。  
S つまり、インリンは女手ひとつで子供を育てながら、反政府的な活動に動んでいることがわかる。ここで私たちが、そうかインリンは台湾人だったという彼女自身の背景に気づくんだよね。中国と台湾の緊張関係は今も続いているからね。インリンもまた、女手ひとつならぬ水着ひとつで日本にやってきた、いわば「EXILE」。私、この作品を見て、なんだかインリンのことでも好きになったなあ。

### ◆別府という町について

S サルキスの作品が展示してあった藤瀬閣(図7、8)もそうだけど、別府は文化財的なものが多く残ってるよね。

Y うん。町を歩いて、「あ、これなんだろう」という古い建物がよく目についた(図9)。  
S 町全体が時が止まっているっていうか…いい感じで保存されてる(図10)。  
Y ただの観光地というだけじゃなくって、温泉や湯治っていう文化がきちんとあつて必要とされてるから町の根本的な部分はずっと生きていて、それにプラスして、ある時期に取り残されたことが、いい意味ですごく生きてきているっていうか…。  
S アート展自体に関しては、もう少し踏み込みがほしいという意見はあるものの、一部の人を熱狂させることのできるポテンシャルを持つ町だね。  
Y 別府もう一回行きたい！！…って私は思った。すっごく。  
S 思うでしょ！私なんかさ、熊本の人にもっと見てほしくて、日帰りバスツアー組んじゃった位だよ(笑)  
Y アートを見るために来たけど、別府という町自体を発見したんだよね、きつと。  
S そうすることで全体の思い出が素晴らしいものになるならば、こんなにいいことはない。ついつい、美術業界にいと「もっとアートを知ってほしい」って思っちゃうんだけど。このさい、まあ、いいや。2番目くらいで知ってもらえれば本望です(笑)  
Y うん、まずは別府でいいよね。別府が先でアートが後でいいよ。  
S 別府という町を愛して育ててきた人たちの歴史が、いわゆる「現代美術」の歴史より以前からあるわけだから、その点に敬意が払われているのがすごくいいなと思った。  
Y なんか、別府の港に行って思ったんだけど、九州の東側の海って本州に向かって開かれているんだなあ。関西行きの汽船とかね(図11)。それもあって、昔は新婚旅行の人とかも多かったみたい。チャン・ヨンヘ重工業の映像作品のモチーフもそうだったものね。  
S それと、インリンの作品の設定にも使われていたけど、別府にはお茶漬屋さんがたくさんある。というのが、あの土地で、芸が無くてもお店を開いて、女手一つでやっていけるのが、お茶漬屋さんだったんだって。  
Y そうか。新婚旅行と、女手一つ…両極だね。そういうことも含めてさ、別府って、来るもの拒まず、去るもの追わずっていうか…ある意味、海辺の町のドライな感じ？風通しがいいっていうか。  
S うん。ちよっと、逃げ場所的なものも感じるかな。隠れ場所というか…おしゃれにいうとアジール…？的な(笑)  
Y それとやっぱ温泉(図12、13)。一大観光地でありながら、ちよっと「訳あり」だったりっていう人が逃避(避難)できる場所っていう感じもするんだよね。湯治場とかもあるから、観光で有名温泉地として娯楽を求めて訪れる人と、温泉に入らざるを得ないというか、治療とか療養で温泉を必要として別府に来る人もいて、そういう部分が、町の中で時々垣間見える。というか、両方共存してるから。  
S でも、その陰の部分を見ないようにしてくれてるっていうか。自然に受け入れて、許容してるんだよね。町が優しいんだよね。もちろんそれが商売というものもあると思うけど、さっさといてくれる。おせっかいは嫌かな。みたくない。Y 間口が広いんだよね。過剰にもてなしもしないけど、排除しようとしたりもしない。だからかな。ボランティアさんすっごい感じよかったです。距離感のとりにかたとか…。  
S やっぱあれは、観光慣れ…人慣れしてるからかな。立命館アジア太平洋大学が開校したせいか、外国人留学生と思われる人をよくみかけたし。  
Y だから、すっごく居心地がいい。余所者なんだけど、受け入

れられるっていうか。受け入れられるんだけど、出て行くのも自由っていう。  
S やっぱ観光地としてのキャリアのなせる技だと思ったなあ。果たして熊本でこういうことができるんだろうか、とまず思ったよ。  
Y 私も思った。「田舎の都会」だもんね。我々が愛する熊本は。  
S こういうイベントはしいて言うなら杖立や天草という土地では可能なかも。それに、開放性という点では、まだ熊本は人慣れしてないのかもしれない。なにせ背中が阿蘇、腹は有明海という超1級の自然の要塞によって守られてるもんね。新幹線が来ることで、多少それは変わったりするのかな。  
Y 一度友だちになったら、とことん一生付き合うタイプなのよね！  
S ほんとに。我ら熊本人は、シャイだけど情に厚い奴なんです！ここ強調しよう！  
Y いったい誰にむかって！？

### ◆わくわく混浴アパートメント

S わくわく混浴アパートメント良かったよね。別府駅に近い「清島アパート」(図14、15、16)という場所のべ100人以上の若手アーティストがレジデンス(滞在)しながら制作しているんだよね。作品そのものの力としては、もちろんまだまだのところもあるけど、アパート自体の持っている場所の力もあって、彼ら自身の生き生きとした生活感がいい意味で出て、映画のセットの中に入り込んだみたいで、新鮮だった。  
Y なんかね、私が行ったときに、入り浸っている小学生くらいの男子がいて、多分あそこをすっごく気に入ったようだった。おもしろい遊び場を見つけたと思ったみたいで、まるで我が家のように遊んでた。  
S ああ、いいね！そういうの。  
Y 最初は入り口で単にシャボン玉吹いてる子がいるなーと思っただけだったんだけど、中を見てたら、いろんなとこに出没してくる。作品の上で寝てたり(笑)きつとあの少年は、たぶん、あそこで何をやるかはあんまりないだろうけど。  
S きつと場所の魅力が直感的にわかったんだね。そういうのって素晴らしいね。あんな家の傍にあれば、最高の遊び場だよ。  
Y うん。しかも、おそらく最終日は作品ですごいことになってると思うよ。短時間で作ろうと思ったら、絶対こんなところには気づかない、作らないよねっていう所にまで作品がある。人が住んでる匂いがして、生活とアートとかの何かよくわからない混合体になっている。  
S ああいうのってさ、熊本だと河原町なんかでやるとフィットすると思わない？  
Y あー、いいね！しかも、わくわくアパートはさ、人がたまっていられる余力があるっていうのがよかったんだよね。これは別府の町全体にも言えることなんだよさ。  
S 熊本にも、あんな感じてたまっていられるところがあるといいなと思った。レジデンスとかできるような…。これから、作っていくといいなと思ったな。あーこんな話をしたら、また別府行きたくなっちゃう！  
Y そうだね、別府はこの芸術祭があつてない時も、BEPPU PROJECTは活動してるし、今度は音楽系のイベントももっと攻めてみたい。  
S 私はまだベップダンスやベップオンガクは体験できなかったな～別府の夜はまだまだ熱いね！ほんとまたいくっきゃないな！

